

2020年 竹原英治の教育論

「この坂を上れば希望がある」

私は、教育とは希望を与えることであると考えます。現在私は、城北高校長として高校に身を置いています。そこで生徒に出会う瞬間に、何かわくわくする希望を感じます。

生身の教師が生身の生徒に出会い教えることは、本当にこれからの人生の彼方にある、向かっていく場所に、成長していく将来像に「希望」（無限の可能性）を与えること、希望を教えることだと考えます。希望とは、変わる事、変われる事、変えようとする事です。偉人の伝記を読む時、そこには絶望の淵から希望の光を見だし、その光に向かって、ひたすらに信念を貫き通す生き方が共通しています。ヘレンケラーを教えたミス・サリバン先生の信念こそ「教育は希望」そのものなのです。

城北高校の使命は、入学させた生徒の潜在能力、可能性を引き出すこと。可能性を引き出し希望の進路を実現させることです。また、城北高校の教育方針は、「人生で勝負できる人間を育てること」です。人のため、世のために尽くせるよう、高校で人生で勝負するための力をつけることです。校訓である「誠実で、明朗で、忍耐強い精神を涵養し、心の豊かさ、将来像をイメージできる力、誠実なあいさつ、人の気づかないところに気づく気配り、一生勉強の気構えを教えていきます。一人一人を主役にする教育を貫きます。全ての生徒が学校が楽しいと思うこと。希望を持つこと、城北高校に来て良かったと思うこと、授業がわかると思うこと、に全力を注ぎます。

教職員の団結力

学校が生き延びるための戦略を全職員で考え共有していくこと。

城北高校の特色、強み、よさ、を鮮明にし城北高校の特徴ある取り組みや強みをブランド化することだと考えます。

教職員への今年度当初に校長からのミッションとして伝えたことは、

どこにも負けない学校にするための条件は、

教員が変わらなければ学校は生徒は変わらない。そして

- ① 団結力
- ② 研究心
- ③ 愛情と感性

の3要素を持って城北高校の教育に当たろうでした。

日本一行きたい学校

生徒たちは、どうして学校に行きたくなるか？

それは、学校に自分を認めてくれる人がいる。

学校に、自分に關心を持ってくれる人がいる。

学校に、自分を愛してくれる人がいる。
だから学校が好きになる。学校に行きたくなる。
城北高校は、君たちが一番行きたい学校になる。
それは、城北高校には、君たちに愛情を精一杯いっぱい注いでくれる先生たちがいる！
と中学生たちに云いたい。

あこがれ

あこがれの教育をする あこがれの教師に
今日もまた こころの甕を打ち唄らし

打ち唄らしつつあくがれていく 牧水

教育は「あこがれ」させることであると考えます。「あこがれ」にこだわろう「あこがれさせよう」を合い言葉にして学校運営をやってきました。教師にあこがれ、教師の教える教科にあこがれ、教師の話す人生にあこがれ、教師のあこがれにあこがれていくような教育を目指そうと言ってきました。教師は自分の理想の教育にあこがれ、生徒たちが自分の将来にあこがれていくような教育をしたいと言ってきました。学校の教育は教師の教師力の証明であり、それはあこがれ力の証明でもあります。一人の教師との出会いが子ども的一生を決定的にするのです。

ゲーテの言葉にあるように「人は自分が愛する人からしが学ばない」

分教場 ～一言の教育～

昭和25年生まれの私は、昭和32年私の教育の原点はここに 있습니다。小学1年生時に小学校から離れた村里にある「分教場」と呼ばれる小学校で学びました。その分教場から、月に一度ほど本校行きがありました。全校生徒500人以上の本校に行くといつもカチャーショックのようなものを受けていました。その日も本校の学校行事に分校から参加して、全校生徒運動場でお正月の遊び実演のお話を聞きながら先生が「この尻を掲げてみる人」の声に反応して手を挙げ、手を挙げたのがわたし一人だけで全校生徒の前で尻掲げをしてあがらずみんなが失笑し、落ち込んでいる私に吉田小聖先生は「英治君、勇気があったよ。勇気が一番大切です。」と目をしっかり見つめ言ってくれました。この言葉が、今もって私の人生の生きる力、生き方の根幹になっています。

「一言の教育」…小さな一言の教育にも人の人生を決定する力がある。本気の愛情の魂の一言がこどもの人生を決定づけるのです。その人の心に声をかける。

人生のミッション論

○ 私は、ミッション（使命）とは天から「あなたは今これをやるのです。これに命を燃やすのです。」という天からの命であるとこれまで考えて来ました。

その時その時の自分の人生での「命の燃やし方」を指示されていると思い、人のた

めに命を燃やす。人のために心を高めることを人生の使命としてきました。

私の人生のミッションは「自ら進んで捨て石たるに甘んぜよ」です。

使命とは、自分に与えられた任務とあり、広辞苑には「天職」ともあります。

私は、自分の命の使い道と解釈しました。自分の使命は何か？と問う生き方をしてきました。今、私は天からこれをやりなさいと言われているのだ。とです。

「私が今しなければならぬことは！」常にこのことを問いながら仕事をやってきました。県教育委員会体育保健課課長時代いろいろな会議が一日いくつも重なります。

担当主査が挨拶文を作ってくれますが、使命を受け止めると挨拶文がいらぬのです。

校長訓話やいろいろな講演でも使命を受け止めて望んでいます。

始業式、終業式、集会等で校長からのミッションを出し続けます。

そのミッションは「日本一の校風をつくれ」です。もちろん「イメージせよ」「希望線を下げるな」「行動せよ！」「継続せよ！」「あきらめるな、絶対あきらめるな」のミッションも出していきます。

校風論

校風は全生徒を高みに導きますし、全生徒を沈み込ませます。だからとことん校風にこだわってきました。全生徒に学校の諸儀式の時やいろいろな全校集会の時具体的な状況を出して話しました。出張先のある飛行場の待合いロビーで、2つの高校の修学旅行団に出会った。二校のうち一校は整然とし目がきりりとして笑顔の絶えない集団、もう一つの高校は服装が乱れ地べた座りしている生徒が多くガムをクチャクチャがむ生徒も多い。この中にも本当に真面目に頑張ろうとしている生徒もいると思うが、その生徒も含め全生徒で沈み込んでいくように思う。これが校風なんだ。

真面目が当たり前真面目な生徒がからかわれない学校

「一生懸命がむしゃんよが（格好いい）」が響き合う学校

人生の仮説論

これからの真の生きる力は仮説力ではないかと考えます。現状課題を明確にする力。その課題・テーマを解決するための仮説を確信的に描き出し、その立証を粘り強くやり通す力が今、生徒たちにつけたい力です。

- 私の人生の仮説は変わろうとすれば「人は何歳になっても変わる」ことができる。こうすればきつとこうなる（信念）「奇跡のリング」

教育信念

- 教育は「希望」

「あなたは今何をしていますのですか？」と問われたら。「私は、地球の希望を育てているのです。」と答えよう。目の前の一人一人の生徒に心を高める教育ができたなら。その生徒たちがきつと地球をすばらしい星にしていこう。その希望を持って教職に当た

る。

東日本大震災での日本人の心の高さを全世界の人々が見てすばらしい人間性だと感動していること。日本の教育が世界に影響を与えている。

生徒の心に火をつける教師に ウイリアム・アーサーワード

2019年教育論

学校経営は学校は希望

○希望の教育～学校は希望～

学校は希望の象徴、学校には希望があふれてなければなりません。

希望があふれる場所それが学校です。

子どもたちへの愛情に満ちた教師たちが、子どもたちの可能性を信じ、情熱を持って決してあきらめず「希望に向かっていく力」を子どもたちに授け続けている姿が学校なのです。

教師が無限の愛情を注ぐこと、教師が可能性を強く信じ切ることから希望は生まれます。具体的な目標に向かって行動することが希望であり、目標を明確にする必要があります。目標を達成するイメージを目標ラインを超えるイメージと考えて私は「希望線」という言葉を造語しました。希望線は希望する大学であり希望する職業であり希望する夢であっていいわけです。希望するクリアラインを「線に例え」バーのイメージでバーから自分の位置はどこか超えるために何をしなければならぬか。何を実行し何を使うツールにするかをはっきりさせるためのイメージが希望線なのです。

学校経営

学校経営は「評判をあげる。あの学校はすばらしい学校と言われること。生徒が保護者が城北高校はすばらしい学校と思うこと。それが「成果」であります。」

成果をあげることは教師のやりがい士気を高めます。教師の士気を高めるには校長が職員一人ひとりをよく認め、褒め、励ますこと。職員を褒める努力をしていきたいと思っています。職員をヒグマリオン効果でやる気にすることです。

経営理念は「ブランド」を創りあげる教育。

「希望広場」を城北高校独自単元にするブランド力

各科のブランドを！

三段三層三角形教育

心をつくる・・・生活が基盤 授業命と学習習慣がその上に 進路実現がその結果

学校経営 学校には存在意義がある。使命「ミッション」がある。

どのとうにしてその学校の「使命」を果たすのか。

「学校経営のミッションと仮説」

○「素晴らしい学校」と言われる学校

○「心の教育を徹底すれば」学力が上がる。進学実績が向上する

心に篤を持って！

私の造語です。心に筆を持つとは、美しい心を持つこと。人の痛みがわかる心を持つこと。気づきの心を持つことと言ってきました。美しい学校に美しい心が育つと言ってきました。生徒が心に常に筆を持ち続けるとき必ず学力も向上すると宣言してきました。

イメージせよ！

10年後の自分を強烈にカラーでイメージせよ！どんな服を着て、どんな職場にいて、どんな家に住んで、何を生き甲斐、目標にして生きているが鮮明にイメージしなさいと口酸っぱく言っていた年がありました。九州大学に合格した生徒が、後輩へのアドバイス会で、センター試験後の前期試験までの1ヶ月は地獄の日々、しかし自分は大学に入学してキャンパスを歩く姿、授業を受ける姿、友達と話している姿をイメージして乗り切った。後輩への言葉とするよといいました。その後、私は鹿本高校の教育スローガンを「イメージせよ」にしました。

ヒグマリオン効果

ギリシア神話 キプロスの王ヒグマリオンの石像
ハーバード大学ソーレンダール教授の研究実験
城北高校では「全ての生徒のヒグマリオン効果を」を合い言葉にしたい。
教師の心からの期待感です。教師の心からの信じ込みが子供を伸ばすのです。
外山滋比古先生著作「思考の論理学」ほめてやらねばの章にも書いてあります。
生徒を伸ばす方法は「本気でほめてやること」である。とにかく生徒を見つめほめることと褒めることです。
生徒を伸ばす方法は、生徒を本気で「認め」「褒め」「励ます」こと。

コミットメントシート

一人一人を主役にするよく言います。私も城北高校は「一人一人が主役の学校」と言います。その実践は私は全校生徒の名前を覚え生徒を名前と呼ぼうと思います。部活動や出身中も保護者の顔も覚えようと努力します。そして、全生徒に目標シートを書いてもらいそれを読んで印鑑を押して返し、コピーを校長室の机の脇に置いておきます。そして、全生徒にコミットメントシートに「私は 絶対に なる」を記入させて教室に掲示します。コミットのレベルを上げていくことに力を注ぎます。

ゲートの言葉

「人は自分の愛する者からしが学ばない」

スポーツマンシップ

城北高校の生徒は皆スポーツマン

リスペクト精神 スポーツマンシップと武士道の精神 正々堂々卑怯なことはしない

ONE FOR ALL ALL FOR ONE

ノーサイドの精神

教育の根幹に 「スポーツマンシップでいこう！」 高体連のスローガン

中村俊輔の実話

私が熊本県運動公園の園長の時、2003年日韓共催サッカーワールドカップがあった。

トルシエジャパンのトルシエ代表監督は中村俊輔を代表に喚ばなかった。代表選手が沖縄で台宿中に横浜マリノスの一選手として運動公園にキャンプに参加した。

俊輔を一週間徹底マーク誠実な謙虚で静かに闘志を燃やす「人間性を見た！」

石切職人の寓話

あなたは何をしているのですか？

石を切っているが、人々の心を豊かにする教会を造っているが

自分がやっている仕事の本質真の目的は？

教師として、「私は、地球の希望を育てている」

「私は、未来の地球をつくる子どもを教育している」

「私は地球に希望の種を蒔いている」

ブロークンウインドウ理論

私の教育信念教育理念 一点突破

ニューヨーク市長ジュリアーノの政策

4年間の実践 奇跡の昇降口

美しい学校 美しい心

私の学校経営の基盤 校風がすべてよい校風の基盤は生徒の心が豊かであること生徒の心がみずみずしく落ち着いていること。そこからしが真の教育はできない授業命はなしえない。美しいとは塵がない、廊下が光っている。トイレが光っているだけでなく、学校全体が整然としていなければならない。そんな学校は必ず生徒が伸びる成果を出す。

心に火をつける教育

情熱竹原、ダイヤモンドはダイヤモンドで磨く 教師に火がついてなくて生徒に火はつかない。教師が燃えているか。ヒグマリオンの情熱があるか。ミス・サリバンの情熱があるか。心を揺さぶる心に入り込む教育をしているか。

奇跡のリンゴ

青森の木村秋則さんの実話 リンゴ栽培を不可能と言われた無肥料・無農薬での栽培に挑戦され8年間の試行錯誤から見事に成功された。

仮説力 知的体力

特に、青森大台風の時、木村さんのリンゴの木だけが倒れなかった。その理由は、木村さんのリンゴの木はほかの農家の木より3倍根が張っていた。沢山の肥料は自分から根を張らずに栄養がとれるから木は根を自力で張らなくても栄養がとれる。肥料を極力やらない木村さんの木は自力で必死で根を張ったから倒れなかった。根を張る。根を張らせる教育をどうするか 保護者と一体となった取り組みをすることを目指します。

心の偏差値

私の造語です、教育理念コンセプトであります。

私は「学力の偏差値は問題ではない。一番大切なのは心の偏差値。心の偏差値を日本一にする校風をみんなで割りあげよう」と話す。

教育 ミッション論

ミッションとは天からの使命である。教育の職にある者は、こどもたちを教え導きなさいと天から与えられた使命を果たすことが命の意味と考えてきました。しかし、その使命は絶対に「楽しんでやること」「いつもワクワクしてやること」が条件だ言っておられると考えて教育の道を歩んできました。そしてミッションは人生のミッションであり、その時その時瞬間のミッションを意識してきました。今、私は何をすべきか、今の自分の使命は何かを自問自答して、事に当たるとき判断してきました。担任のミッション。ある生徒に関わるときのミッション。1時間1時間の授業のミッション。部活動指導のミッション。

交通系のミッション。県教育委員会課長のミッション。校長のミッション。城北高校のそれぞれの高校のミッション。

教育 ビジョン論

目指す学校像

ビジョンを描くことこそ楽しくワクワクする。

楽ではないが楽しい学校

「日本一の学校」全国各地から本校を視察に訪れる。どうしてこんなに生徒が自ら楽しんで何事にも挑戦し輝き、先生たちがチームワークを発揮して生徒に関わり、生徒たちを伸ばしている。地元の評判がよく愛され、地域の中学生が憧れている。

目指す学校像

良き校風をつくること。「見てごらん、あれは城北高校の生徒だよ本当にさわやかで気持ちいいね。あんな若者が、これからの日本を背負っていくんだね。」

一生懸命の校風 真面目な校風 活気あふれる校風

教育 テーマ論

教育においてテーマなき取り組みは、さまよい取り組みです。テーマは何かを常に確認して来ました。いやテーマは常に目の前にあるのが本当だと思います。テーマが定まらないのは問題課題意識がないからです。教育のテーマは無量大です。その学校の現状分析から無限にテーマは定まります。いまこの学校の現状からこのテーマを掲げる。

・生活を大切にすゝる・授業を大切にすゝる・人権意識を・学力を・国家試験を・各種検定を
・進路指導を・環境教育を・保護者との対話を・地域に開くアカウンタヒリティーを・美しい学校を・文武両道を・生徒会の自律を・自ら学びに向かう習慣を・家庭学習の定着を
・部活動の活性化を・生徒にやる気を出させる方法を

○ 大事なものは職員共通認識から設定すること職員が思いを共有すること

教育 仮説論

職員集団でテーマを共有し仮説を考えるのがワクワクします。常に意識をして仮説を立てることが学校の取り組みを、教育をおもしろくすると考えてきました。「褒めれば伸びる」「認めれば心開く」「励ませば答える」そしてその仮説が真説となるように粘り強くあきらめずやり抜くのです。チームとしてやり抜けば必ず結果が出ます。あきらめない力が知的体力です。仮説を立てる力立てた仮説をやり抜く力を今の高校生たちにつけるべきです。その力こそこれからの本当の生きる力になると考えるからです。

教育 戦略論

戦略は本当におもしろい。戦略という言葉を必ず使うように指示してきました。ワクワクして戦略を練ろう！と外堀を埋めろ！と言い続けて来ました。本校のミッションを果たすための戦略。本校のビジョンを具現化するための戦略。本校の課題テーマ・仮説を実証する戦略を職員が練るわけです。運営委員会、プロジェクトチームと、個々の職員との面談で「何が戦略はないか。戦略を考えてくれ」とみんなで戦略を練ることがとても意義がある。とても楽しいことなのです。

教育 24時間時計論

私の作ったシートです。生徒たちの生活を大切にしている高校。生活をきちんと指導していく高校を目指していました。生活指導はとても重要です。生活のリズム、生活の習慣を3点固定方や5点固定方で職員がやっていたので。このシートを作りました。このシートを担当や職員と共有することです。もちろん保護者と共有します。クラスで公表したり。

教育 「授業命」論

授業命とは、学校教育において、一時間一時間の授業が学校教育の生命線であることの意味であり、授業は、教師のもっとも大切な使命である。一時間一時間の授業での真剣勝負が生徒の運命を左右することを意味したものであります。

城北高校では三層教育、三角形教育を教育方針にしてきました。生活指導が基盤で、その基盤の上に学力向上「授業命」を掲げました。そしてその一番上部が進路実現になります。「授業命」を書いた額を全教室の正面に掲げたい。授業命の取り組みは、全職員の公開授業実施と公開授業を通しての授業研究。生徒の授業評価。チャイム前一分着座。予習・復習の習慣化の徹底。授業について話し合おう！を取り組みたい。

伸びよ 青年の樹よ

君たちは一本一本の「青年の樹」だ。一本一本樹はそれぞれに違う樹だ。それぞれに育つ樹だ。自ら根を張れ！根が張らないと樹は太くならない伸びない。根を張る高校生活をしよう！

人生の種子を蒔く・・・先ず思う。行動を起こす。始める。

人生の根を張る・・・一生懸命になる。困難な方を選ぶ。続けるあきらめない。

人生の葉を繁らす・・・本を読む。友と語らう。人とコミュニケーションする。ボランティアする。

根を張らせる教育論

根を張らせる教育

「・一生懸命にやる。・したくないことをやる。・とにかくどんなことでも継続する。」

根を張るイメージを持たせる。根は1ミリずつ伸びる。

根が張る瞬間とは？

- ・集中して一心不乱に一生懸命物事に打ち込んだとき
- ・やりたくないこと、苦手なこと、きついこと、苦しいことを自ら進んでやり終えた時
- ・一つのことを一定期間やり続けた時
- ・自分のことより他人のことを考えて行動したとき

楽ではないが 楽しい学校論

城北高校は、根を張らせる学校でありたい。高校生活の中で多くの一生懸命を体験させたい、多くの我慢させたり、歯を食いしばらせる中から感動の達成感を味あわせたい。

そして、我慢したり、歯を食いしばる中に他人への思いやりや人の痛みがわかる人間性を身につけさせたい。友情や切磋琢磨で城北高校生は「なにくそ力」をつけていって欲しい。人生で勝負が出来る生徒を育てる城北高校は、無理をする習慣の研究実践に取り組みたい。

人生の種を蒔け
人生の根を張れ
人生の葉を繁らせ